

2026^{年度}
履修要項



西武文理大学
サービス経営学部

2026 年度 入学生用

2026 年度

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土
5月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
6月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土
7月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
8月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

	日	月	火	水	木	金	土
9月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

2027 年度

	日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

	日	月	火	水	木	金	土
5月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

	日	月	火	水	木	金	土
6月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土
7月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
2月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

	日	月	火	水	木	金	土
3月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

目 次

学部長からのメッセージ ―大学での学びとサービス経営学部の4年間―	1
第1部 サービス経営学部における学修	3
1. 大学の目的	4
2. サービス経営学部の教育目的	4
3. ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与に関する方針）	4
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	6
第2部 履修説明	11
I 学期と授業	12
1. 学期と Semester 制	12
2. 授業時間	12
3. 平常授業	12
4. 休講	12
5. 補講	12
6. 授業の受講に関する留意事項	12
II 単位制と卒業要件	14
1. 単位制とは	14
2. 1単位当たりの授業時間	15
3. 修得した単位について	15
4. 履修単位の上限設定（キャップ制）について	15
5. 卒業の要件	15
6. 必修科目不合格者の履修について	16
III 履修登録	17
1. 「履修登録」とは	17
2. 履修登録の前に	17
3. 履修登録の方法	17
4. 履修登録にあたっての注意事項	17
5. 履修登録科目の取り消し	18
6. 履修登録科目の解除	18
7. 他の大学における単位の修得 ―単位互換制度―	18
IV 成績評価	19
1. 成績評価を受けるための前提	19
2. 成績評価方法	19
3. 評価基準	19
4. 定期試験	20
5. 追試験	21
6. 再試験	21
7. 不正行為	22

8. 成績評点平均点制 (GPA)	23
9. 成績の通知	24
10. 成績の照会	24
11. 卒業認定	24
V 大学から学生への情報の伝達	25
1. 学内掲示とトリプルエーの活用	25
2. Web メール：Microsoft 365	25
VI ゼミナール	26
1. ゼミナールとは	26
2. 初年次ゼミナール	26
3. 専門ゼミナールⅠ	26
4. 専門ゼミナールⅡ	26
5. 専門ゼミナールⅢ	27

第3部 履修計画および授業科目 29

I 履修計画	30
1. 4年間のカリキュラムと履修計画	30
2. サービス経営学部 ナンバリングコード付番ルール	30
3. 各科目とディプロマ・ポリシーとの関連	32
II 授業科目構成と卒業要件単位	39
III サービス経営学部 授業科目及び単位数早見表	41

学部長からのメッセージ

—— 大学での学びとサービス経営学部の4年間 ——

サービス経営学部長 宮島 健次

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

憧れの「大学生」になった今、「さあ、やるぞ!」という意欲に満ちていることと思います。そのやる気をよい方向に生かし、これからの4年間を有意義な時間にするために、「大学での学び」についてお話しします。

高校までの「勉強」とは何だったか

高校までの「学び」は、多くの場合「勉強」でした。授業で先生が話したことや教科書に書かれていることを、テストのために覚えることが中心だったはずです。

「勉強」という言葉には、「つとめる・励む」「無理にしている」といった意味があります。本当はあまり気が進まなくても、努力してやるイメージが含まれています。皆さんも、「覚えなければならないから、とりあえず頭に入れる」という作業を、何度も繰り返してきたのではないのでしょうか。

そして、そのインプットができていかどうかを確かめるためにテストがあり、「どれだけ正確に思いつけるか」で評価されてきました。中学・高校の6年間、このパターンが続いた結果、「覚えること＝学び」と感じている人も少なくありません。

大学の「学び」は3つのステップ

大学でも、もちろん「覚えること」は必要です。ですが、それは学びの第一歩に過ぎません。大学の学びは、次の3つのステップで進みます。

1. インプット：ことばでイメージをつかむ
2. スタンスを決める：お手本を真似しながら、自分の考え方をつくる
3. アウトプット：自分の考えを表明する

この3つがそろって、初めて「大学で学んだ」と言えます。

ステップ1：インプット — 専門用語で世界を「見える」ようにする

大学では、まず専門用語を学びます。たとえば「サービスデザイン」「サステナビリティ」など、聞き慣れないことばがたくさん出てきます。これらの用語は、難しいものごとを説明するための「ラベル」のようなものです。

ことばを知ることによって、「なんとなくぼんやりしていたもの」が、少しずつはっきりしたイメージとして見えてきます。専門用語のインプットは、世界を新しいメガネで見るための準備だと思ってください。

ステップ2：スタンスを決める — まずは先生を「真似る」

用語を覚え、イメージがつかめてきたら、次は「自分はそれをどう見るか」を考えます。これがスタンス（見方・考え方）を決めるステップです。

とはいえ、いきなり「自分のスタンスを持つ」と言われても難しいはず。そこで大事になるのが「真似る」ことです。授業で、先生がどんな情報を集め、どう比べ、どう結論を出しているのかを、注意して観察してみてください。

- そのテーマについて、先生はどんなところに注目しているか
- 異なる意見やデータを、どう整理しているか
- 最後に、どんな言葉で自分の考えをまとめているか

こうした「考え方の動き」を真似して試みるのが、スタンスをつくる練習になります。「学ぶ」は「ま

ねぶ」から来たという説もあるように、最初はお手本を真似るところから始まります。

この準備には時間がかかります。だからこそ大学は4年間ある、と言ってもよいかもしれません。

ステップ3：アウトプット — 自分の考えとして外に出す

最後のステップは、自分の考えを外に出すことです。レポートを書く、プレゼンをする、ディスカッションで発言する、活動として行動に移すなど、形はさまざまです。

大切なのは、「ある事柄について、私はこう考える」と、自分のことばで表明することです。覚えた内容をそのまま言い換えるのではなく、「なぜそう思うのか」「どの経験や情報が影響しているのか」まで含めて語れると、大学での学びが一段深まります。

このインプット→スタンス→アウトプットという流れを、いろいろな科目・経験の中で何度も繰り返していくうちに、皆さんの中に「自分なりのものの見方」が育っていきます。

高校までとの違いと、これからの4年間へ

高校までの学びは、「決められた答えにどれだけ正確にたどりつけるか」が重視されがちでした。大学での学びは、「自分で問いを立て、自分のスタンスを持ち、それを他者と共有する」プロセスが中心になります。

これからの4年間、皆さんには次のような姿勢を大切にしてほしいと思います。

- よくわからないことを、そのままにしないで調べてみる
- 先生や友人の考え方を観察し、「なぜそう考えるのか」を聞いてみる
- 授業や経験を通して感じたことを、ノートやレポートで「自分のことば」にしてみる

4年後、「あのときの自分より、ものの見方が広がった」と胸を張って言えるような大学生活を、一緒につくっていきましょう。

* * *

この履修要項は、サービス経営学部の4年間の授業履修方法、カリキュラム、システム、ルールをまとめています。必ず最後まで読み、自分に最適な学習環境を整えてください。

以下、簡単ですがサービス経営学部のカリキュラムの特徴をまとめます。

サービス経営学部では、サービス産業のイノベーション人材を育てるカリキュラムを提供します。特徴は「サンドウィッチ学修」で、講義と実践（体験実修）を4年間繰り返します。

サンドウィッチ学修とは

講義で学んだ知識をシミュレーションし、体験実修で社会課題を試行錯誤しながら解決します。これを繰り返すことで、「わかる」「おもしろい」「もっと学びたい」という自分らしい学びの力を身につけます。

1年次の主な内容

- 一般教養（ホスピタリティ概論など）と専門講義（サービス・マネジメント論など）
- アクティブラーニング科目：結婚式運営（BUNRI BRIDAL）、東京国際映画祭参加、スポーツイベント、地域企画、ビジネスデザイン、フィールドワーク、資格取得など

アクティブラーニングの3つの特徴

- 仕事で学び、社会に教わる：現場経験で実践力と自信を養う
- 先輩・仲間と問題解決：チームワークと協調性を身につける
- ミッションクリアを目指す：責任感とホスピタリティマインドを育てる

2年次以降

専門展開科目（ホスピタリティ、ツーリズム、ブライダル&エンタメ、マーケティング、地域創生、デジタル）とゼミナールで学びを深めます。卒業研究では、知識・経験・教養を融合させ、創造力を発揮してください。

私たちは、皆さんが将来、日本だけにとどまらず世界のサービス業界で活躍する人材に育つとともに、そこで大学で培った資質をもとにしたリーダーシップを発揮することを期待しています。

2026年4月

第1部

サービス経営学部における学修

1. 大学の目的

本学は、学生に幅広い教養教育を授けるとともに、サービス経営学及び看護学に関する専門学術の理論と実践的応用を研究・教授し、不撓不屈の精神と、報恩、誠実、奉仕の心をもって、社会の発展に寄与しうる学力と見識を有する人材を育成することを目的としています。

2. サービス経営学部の教育目的

西武文理大学サービス経営学部では、「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」を育成することを目的としています。

「豊かな人間性」とは、どんな環境や情勢の中においても、ホスピタリティ精神を中心とする、他者との関係性や社会をより良いものにしていこうとする心や態度、性向を意味しています。

「実践的で柔軟な職業人」とは、社会の抱える問題点や課題に対して、時節に応じた対策を実践することによって問題を解決できる専門職業人を指しています。

この目的の背景には、現在、サービス業が製造業との両輪としてその役割を増しており、さらには製造業のサービス化も課題になっていることがあります。経済社会の急速な変化にともない、サービス産業の市場動向はめまぐるしく変化し、顧客ニーズも多様化しています。こうした社会情勢の中において急速な変化を読み取り、素早くかつ的確に決断を下す判断力と、計画を遂行する実行力を兼ね備えることが強く求められています。

3. ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与に関する方針）

サービス経営学部では、所定の期間在学のうえ卒業要件となる単位を修得し、以下の能力を有する者に学士（サービス経営学）の学位を授与します。

DP1 ホスピタリティ精神

a. 多様性の理解と他者の受容

多様性の存在とその意義を理解するとともに、自己と異なる他者を分け隔てなく受け入れることができる。

b. 他者との相互信頼関係の構築

誠実な言動により、他者と相互信頼関係を構築することができる。

c. 利他的精神

損得勘定を持たずに、思いやりの心をもって他者に利する行為をすることができる。

d. 奉仕的精神

自らの意志で進んで社会に利する行為をすることができる。

e. 包摂性の実践

自ら進んで異なる他者に歩み寄り、異なる文化・価値観・意見・視野等を取り入れながら、持続的で一人も取り残されない包摂的社会の実現に向けて行動できる。

DP2 市民としての社会的責任

a. 社会の一員としての意識

社会の一員としての高い意識に基づいた行動をとっている。

- b. より良い未来の創造への貢献
大学で修得した専門性を中心とする多様な力を活用して地域社会や国際社会に貢献できる。
- c. より良い未来の創造のための行動力
大学で修得した専門性を中心とする多様な力を活用して未来の創造への積極的関与のために行動できる。

DP3 学び続ける力

- a. 学びの意義の理解
学びの意義や面白さを知っている。
- b. 学び方・学びの接近方法・学びのフレームの獲得と適用
自主的・協働的な学び方、学びの接近方法、学びのフレームを獲得し、適用できる。
- c. 社会の変化への視野と対応方法の獲得
社会の変化への視野と対応方法を獲得している。
- d. 生涯に渡る自らのキャリア形成を含む、人生の目標の自覚
人生の目標に向かって努力実践できる。

DP4 汎用的技能

- a. コミュニケーション・スキル
日本語を用いて、知的活動、職業活動、社会活動に十分なレベルで読み、書き、聞き、話すことができる。
- b. 数量的スキル
自然や社会の事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現できる。
- c. 情報メディア・リテラシー
情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を適切に収集・分析して適正に判断するとともにモラルに則って効果的に活用できる。
- d. 論理的思考力
情報や知識を、複眼的、論理的に思考できる。
- e. 課題発見・解決力
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。

DP5 豊かで確かな知識・理解に基づく柔軟で豊かな人間性

- a. 知の営みの構造の理解
知識をどのように入手し、どのように創造していくか、という知の営みの構造を理解している。
- b. 普遍的な知識と自己の存在に対する理解
普遍的な知識を修得し、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解している。
- c. サービス経営学の理論体系と普遍的な知識との総合による応用能力
サービス経営学の学問内容を体系的に理解し、普遍的な知識と総合して、これらの知識を知的生活、職業生活、社会生活において応用できる。

DP6 ホスピタリティ精神に基づく協調的主体性（未来創造的コンピテンシー）

a. 自己管理・デザイン能力

目標意識と高い意欲を持ちながら、自らの時間、健康、感情、人生を管理・デザインできる。

b. 協働性（チームワーク力）

グループの目標達成過程において他のメンバーと協働しながら自らの役割を果たすことにより、グループをチームに変えることができる。

c. 率先力（リーダーシップ）

メンバーの自己肯定感を高めてやる気を引き出し、グループを形成・維持・修正・発展させ、グループの目標を達成することに導くことができる。

d. 倫理観

社会の規範やルールによって自らを律し、人として守らなければならない善悪の基準に従って行動できる。

DP7 未来創造的思考力

a. 批判的思考力

批判的思考によって社会やサービスに関する多様な課題を整理して問題の本質を発見できる。

b. 分析力

批判的思考に基づく分析によって社会やサービスに関する多様な課題を整理して問題の本質を発見することができる。

c. 評価力

批判的思考に基づく分析・評価によって社会やサービスに関する多様な課題を整理して問題の本質を発見し、それらの解決に近づくことができる。

d. 判断能力

批判的思考に基づく分析・評価・判断能力によって適正に行動できる。

e. 独創性

批判的思考に基づく分析・評価・判断能力によって社会やサービスに関する多様な課題を整理して問題の本質を発見し、それらを解決するために独創的に思考できる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

サービス経営学部では、サービス経営学の学修を通じて、「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」を育成することを教育目的としています。こうした教育目的を実現するために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成しています。このような方針をカリキュラム・ポリシー（Curriculum Policy：CP）と言います。

CP1

本学部においては、全ての学修機会においてホスピタリティ精神を育むとともに、大学で修得した専門性を中心とする多様な力を活用して、市民としての社会的責任に積極的に関与できる人材を育成する。

CP2

本学部で学ぶ学生たちの将来の活躍の場は、従来の想像が及ばぬ速度で変化する社会である。ここでは「予測不能な変化に臨機応変に対応できること」が最重要課題となる。そのためには、「学び」に関心を持ち、「学び続ける」意欲や態度を持つことが必須である。

そこで、これまでの「知識移転型の学び」に加え、「能動的・活動的な学び（アクティブラーニング）」における「反省的実践」を通して、①ホスピタリティ精神に基づく、豊かで柔軟な協調的主体性（未来創造的コンピテンシー）、②専門性、③汎用的技能、④未来創造的思考力、⑤未来創造的行動力の5つの要素でできている、「他者ととともに協調し、学び合いながら、未来を創造する力」を総合的に修得できるカリキュラムを編成する。

CP3

まず、実践的で柔軟な専門性の基礎を固めるために、「ラーニングエレメント科目」を設置する。これは、自律的・協働的・創造的な「学び合い・教え合い」に根差す、自らに適した新しい「学び方」を発見するためのものである。

CP4

それに加え、サービス経営学が対峙する現代的諸課題に対して過去・現在にとどまらず未来起点から考える「未来創造エレメント科目」を設置する。

CP5

変化する社会に対応できる視野と能力を修得するための汎用的技能を身に付ける機会を、一般教育課程及び専門課程を通じて提供する。

CP6

一般教育科目として、「豊かな人間性」を育むとともに、現代社会における知の在り方への理解を土台として普遍的な知識を修得し、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解できることを目指し、「大学基盤科目（ホスピタリティとコミュニケーション理解科目）」の他、教養系の科目として「人間理解領域科目（含、体育・健康理解科目）」、「社会・自然・環境理解領域科目」、「情報科学理解領域科目」、「外国語科目」並びに「初年次ゼミナール」を設置する。

CP7

専門科目として、1年次よりサービス経営学の基礎学問である経営学・経済学・会計学の基礎を学ぶ「専門基礎科目」を設置する。それらをベースとして、サービス経営学独自の理論を学ぶ「専門基幹科目」を設置する。

CP8

2年次以降、サービス経営学の領域において重要かつより高度な実践知を得ることを目的とした「専門展開コア科目」を設置する。

CP9

「ラーニングエレメント科目」で発見・獲得された学び方をもとにした、「アクティブラーニング科目群」を設置する。より効果的なアクティブラーニングの実現のために、学びの言語化や体験の共有化、ならびにポートフォリオ等を用いた学びの可視化を実施する。

「アクティブラーニング科目群」では、正解のない問題の解決に向けた様々な協働的な学びの中で、各人が試行錯誤を通じて「実践的で柔軟な」思考や身体感覚・行動様式とホスピタリティ精神に基づく協調的主体性である「未来創造的コンピテンシー」を獲得する。

CP 10

変化する社会に対応できる批判的思考力・分析力・評価力・判断能力・独創性を養う機会を、とくにアクティブラーニング科目の振り返りやケーススタディ、並びにゼミナールの中で、提供する。

CP 11

「専門展開科目群」では、6つのサービス経営学の実践領域（Ⅰ：ホスピタリティ、Ⅱ：ツーリズム、Ⅲ：プライダル&エンターテインメント、Ⅳ：マーケティング&マネジメント、Ⅴ：地域創生、Ⅵ：デジタル）を設置する。自らの興味・関心に応じた領域・内容を選択・特定することにより、これまでの学びを発展・深化させる。

CP 12

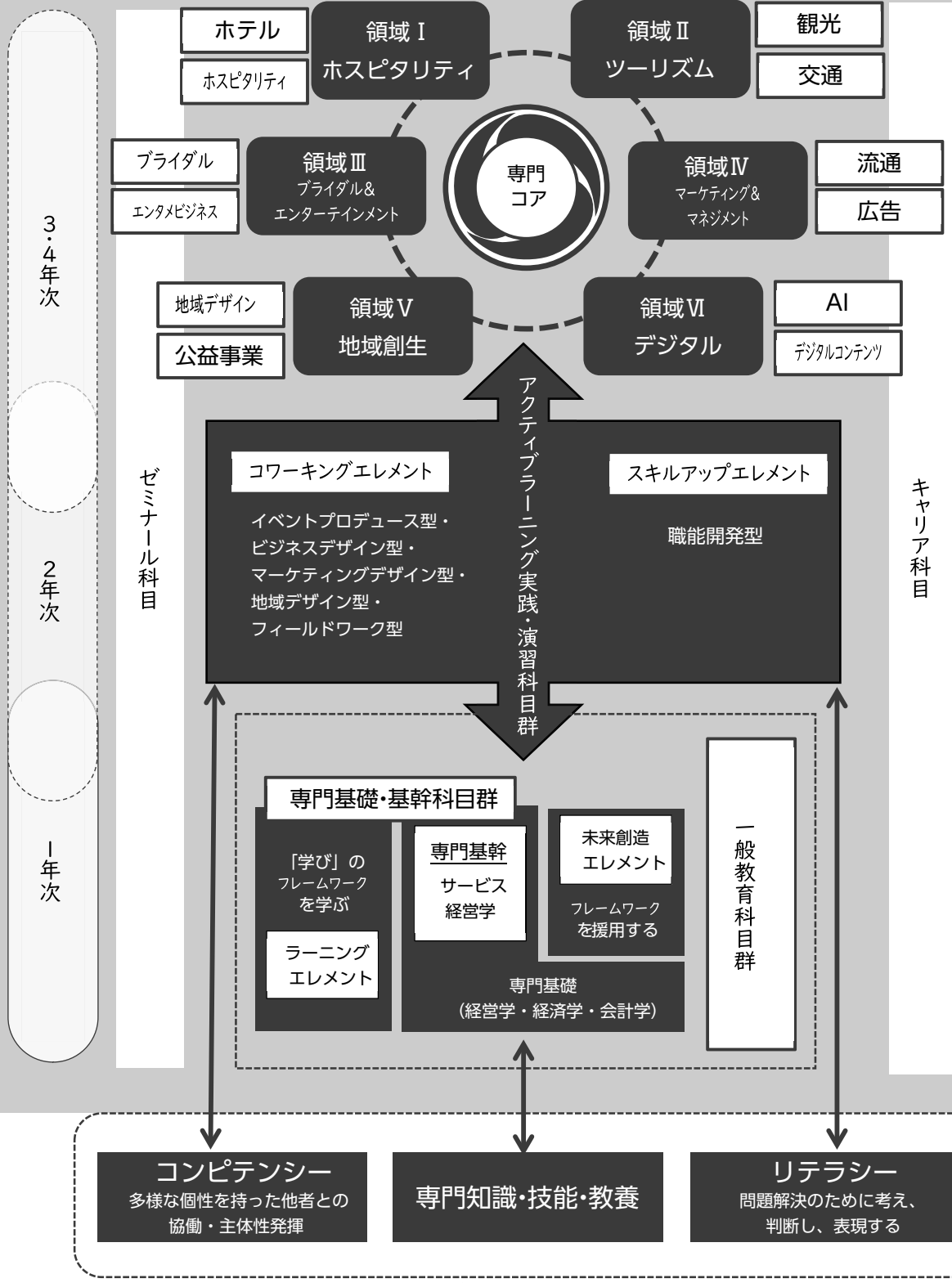
以上の専門科目と専門展開科目群との統合を図りつつ、より学びを深化させるために2年次から4年次まで「ゼミナール科目」を設置する。

CP 13

すべての学びを補完し、将来に向けたエンプロイヤビリティを高めることを目的とした「キャリア科目」を設置する。「キャリア科目」は、1年次から4年次まで全学年必修とする。

サービス経営学部カリキュラム概念図

サービス経営学部展開科目群





第2部
履修説明

I 学期と授業

1. 学期とセメスター制

本学では学年を次の2つの学期に分けています。

前期：4月～9月 後期：10月～3月（ただし、実際の授業は9月から開始されます。）

授業科目の多くは、短期集中で学修効果の高い授業とするために、前期または後期のみの半期で完結します。これを「セメスター制」といいます。

なお、夏（8月～9月）と春（2月～3月）の休業期間中には、インターンシップ、集中講義、留学生・帰国学生のための日本語教育、アクティブラーニング科目で取り組む企画の実行といった体験・実習、補習授業などを実施することがあります。

2. 授業時間

授業は1時限を90分とし、次のとおり行います。

1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
9：30～11：00	11：15～12：45	13：30～15：00	15：15～16：45	17：00～18：30

3. 平常授業

学期の最初に提示される時間割表に従って行う授業を「平常授業」といいます。

授業に関する変更は、学内掲示及び学修管理システム「Active Academy Advance」（以下「トリプルエー」という）でお知らせします。

4. 休 講

大学の行事、教員の公務・出張等により授業を休みとすることがあります。これを「休講」といいます。休講については、学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

5. 補 講

休講した授業については、原則として補講を行います。

補講に関する詳細は、学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

なお、補講への出席も授業への出席回数に含まれますのでご注意ください。

6. 授業の受講に関する留意事項

大学は、社会に出る前の最後の教育機関です。そのことを自覚し、大学生として恥ずかしくない態度で授業に臨んでください。

とくに、授業に関して以下に該当する場合は、学則第53条に基づき懲戒処分のうえ、当該科目もしくはその学期のすべての履修登録が無効となる場合があります。また、担当教員の判断で、それ以

降の授業への出席を認めない場合があります。

- ・学生として恥ずべき行動、大学の名誉を傷つける行為をした場合
- ・大学や授業の秩序を乱した場合
- ・大学や教職員の指示する安全や健康の施策に協力しない場合
- ・他の受講生や教職員の身体的安全あるいは精神的平安を脅した場合
- ・授業や授業準備の円滑な進行を妨げた場合、もしくはそれを幫助した場合
- ・授業の出欠確認に関する不正行為を実行、あるいは幫助した場合
- ・授業の出欠に関する届・願い・申請などの手続きにおいて虚偽や不正に係ることを行った場合
- ・授業での提出物（課題・小テスト等）に関する不正行為（剽窃・カンニング等）を行った場合
- ・学則や学生規則を始めとする大学の定める規則に反した場合

『学生便覧』に掲載されている各種規則については、必ず目を通してください。「知らなかった」、「聞いていない」では済まされません。

通学時間や休憩時間においても、授業時間に準ずるものとして、本学学生として相応しい行動を取ってください。

Ⅱ 単位制と卒業要件

学生は、卒業に必要な単位を修得し、ディプロマ・ポリシーで定められている能力を身に付けたことが認められた場合、卒業することができます。

1. 単位制とは

単位制とは、進級・卒業に必要な学修量を「単位」として計算する制度です。

大学の単位制度への確実な理解は、大学生活において非常に大切な要素の一つですので、しっかりと理解しましょう。

(1) 1 単位と計算される学修の標準時間：30～45 時間

大学では、法律により、単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を30～45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする「単位制」が採用されています。つまり、1単位修得するためには標準的に30～45時間の学修量が必要だということです。

通常の科目は2単位ですので、一般的には一科目の単位を修得するには60～90時間の学修量が必要です。

授業時間：

1コマ2時間（正味90分を2時間と計算）×15週＝30時間

事前・事後学修時間：

1コマにつき、2時間（正味90分を2時間と計算）×15週×2回＝60時間

計90時間

したがって、授業を受けるだけでなく、シラバスに明記されている事前学修・事後学修を自分自身で主体的に実施しない限り、大学の単位を修得することはできません。

(2) 単位制度における質的側面：標準時間に拘わらず、学修目標まで学修が必要

大学における「単位制」は、高校までの単位制とは異なり、時間と質の両方にかかわる制度です。上で述べた1単位の標準学修時間は、あくまでも、標準的な時間にすぎません。

学修目標を達成するためにはさらなる時間が必要となる人も少なくないでしょう。特に学修の仕方や習慣が身に付いていない場合は、正しい学修の方法や習慣が身に付くまで、試行錯誤しながら、大学の学修を身に付ける必要がありますので、より多くの学修時間が必要となります。また、卒業のために必要な科目やそれぞれの科目群において修得が必要な単位数がありますので、注意が必要です。とくに、各年次に配当されている必修科目は、その配当年次に修得する必要がありますので、単位を落とすことなく最後まで頑張って履修しましょう。

(3) 卒業必要単位数と1年間に修得すべき単位数

本学部の卒業必要単位数は124単位ですから、4年間で卒業する場合、1年間に30単位程度修得する必要があります。1学期間の履修登録単位数は、学生自身が自身の計画や状態に合わせて、22単位～24単位ほど履修登録することを推奨しています。そのうち20単位以上修得すれば、3年間で少なくとも120単位修得し、4年次には1年間で専門ゼミナールⅢとキャリアデザインⅢを含めて5単位程度を修得すればよいことになります。

4年次に就職内定先に提出する「卒業見込み証明書」は、現時点において（状況に応じて変更の可能性もあります）、3年次末までの単位修得数を93単位以上（年平均31単位以上）としていますので、就職のために単位修得を早めに進める観点から、年平均40単位（1つの学期で20単位）以上を目指すことが期待されます。

(4) 大学における単位制の本質：主体性と計画性に基づく、卒業のための能力証明

大学における単位制とは、大学生としての自覚を持ち、卒業のために修得しなければならない科目や単位数に注意しながら将来のことを考えて主体的に単位修得の計画を立て、その計画に沿いながら履修登録をした科目の到達目標以上の実力を培い、科目毎の単位認定試験に合格することによってその実力を証明し、最終的に卒業時において、自身が本学のディプロマ・ポリシーに合った学生であることを証明する制度だと言えます。

2. 1単位当たりの授業時間

1単位当たりの授業時間は、授業形態に応じて次のとおり定めています。

講義科目	15時間
演習科目	15～30時間

※大学の単位制における「時間（単位時間）」は、45分を1時間として計算します。

※演習科目の授業時間は、授業内容によって異なります。

3. 修得した単位について

なお、修得した授業科目の単位は、大学の成績原簿に記載され永年管理されます。

また、一度修得した授業科目の単位を取り消すことや重複して修得することはできません。

4. 履修単位の上限設定（キャップ制）について

単位の過剰登録を防ぐことによって単位制度の実質を確保するために、サービス経営学部では各 Semester で履修できる単位数の上限を25単位としています。これをキャップ制といいます。なお、通年科目については、授業科目に与えられた単位数の2分の1として計算します。

5. 卒業の要件

(1) 卒業に必要な在籍期間と単位の修得

卒業するためには、4年（8 Semester）以上在学（休学期間を除く）し、所定の単位を修得する必要があります。また、3年次編入学生が卒業するためには、2年（4 Semester）以上在学（休学期間を除く）し、所定の単位を修得する必要があります。

(2) 卒業に必要な単位の修得の仕方

卒業するためには、必修科目・選択科目ごとに指定された卒業要件単位を修得したうえで、合計124単位以上を修得する必要があります。なお、卒業年次においてもキャップ制の適用があります。キャップ制で定められた履修単位の上限(25単位)を超えての履修登録はできません。

- ① 必修科目 : サービス経営学部で学ぶすべての学生が必ず履修し、単位を修得する必要がある科目
- ② 選択科目 : 各学修領域等に配置した複数の科目のうちから決められた単位数を修得する必要がある科目

卒業要件単位数

本要項の第3部「授業科目」の「授業科目構成と卒業要件単位」をご確認ください。

6. 必修科目不合格者の履修について

必修科目の単位を修得できなかった学生は、あらためてその科目を履修(再履修)する必要があります。

Ⅲ 履修登録

1. 「履修登録」とは

学生各自が、自身の履修する科目を大学へ届け出ることを「履修登録」といいます。
各学期の履修登録期間内に履修登録を行わなければ、授業に出席しても単位を与られません。

2. 履修登録の前に

履修登録を行う前に、1年次は4年間の履修計画（第3部を参照）を考えてください。

2年次以降は過去に修得した単位や卒業後に希望する進路、目標などに応じて1年次に立てた履修計画を再考してください。

自分の目標や目的が定まっておらず履修計画を自分で立てることができないときは、ゼミナールの担当教員に相談してください。

特に3年次、4年次では、必修科目や選択科目の単位は充足しているか、総単位数が卒業要件単位を満たせるかなどを十分に確認し、慎重かつ確実に履修登録を行ってください。

シラバスに各授業科目の内容や進め方、成績評価の方法・基準などを記載しているので参考にしてください。

3. 履修登録の方法

履修登録は、各学期の履修登録期間内にトリプルエーにて必ず行ってください。

授業を初回からスムーズに受講するために、各授業科目の履修希望者数によっては事前の調整を行うことがあります。

トリプルエーによる履修登録の具体的な方法、手順などについては、別途案内します。

4. 履修登録にあたっての注意事項

履修登録をする際には、次のことに注意してください。

(1) 配当年次

1年生は、1年次に配当されている授業科目のみ履修することができます。

2年次以降は、下位の年次に配当されている授業科目も履修することができます。（たとえば、3年生は3年次に配当されている科目だけでなく、1年次、2年次に配当されている科目を履修することができます。）

各科目の配当年次は、シラバス及び本要項の第3部「授業科目」の「サービス経営学部 授業科目及び単位数早見表」で確認してください。

(2) 重複履修の禁止

- ① 同一の時限に2つ以上の授業科目を履修することはできません。
- ② 既に単位を修得済みの授業科目を改めて履修することはできません。
- ③ 複数の教員が担当する同一の授業科目を重複して履修することはできません。

(3) 必修科目の履修

- ① 各年次の必修科目は、その年次に履修登録してください。
- ② 必修科目の単位を修得できなかったときは、翌年度に履修登録をするようにしてください。
- ③ クラス別履修などにより履修時限が指定されている必修科目は、必ず指定された時限で履修しなければなりません。ただし、3年次以降で指定された時限に必修科目を履修することによって他の必修科目の履修に問題が生じるときは、クラス指定を解除して別の時限に履修することを認める場合があります。必要に応じて学生サービス課へ申し出てください。

(4) アクティブラーニング科目について

アクティブラーニング科目のうち、つづけて2コマ開講される授業科目は、2コマとも履修しなくてはなりません。また、これらの科目は、通常の授業とは異なり、土日や夏休み等の長期休業期間中にも不定期に授業が行われることがあります。詳細は、各授業科目のシラバスを確認してください。

(5) 通年科目の履修

通年科目は、前期・後期を通じて履修しなければなりません。

(6) 履修人数制限

アクティブラーニング科目をはじめ、一部の授業科目では、教室条件や授業内容によって履修できる学生数を制限することがあります。この場合、抽選により履修者を決定します。

(7) 履修単位の上限設定（キャップ制）

セメスターごとに履修単位の上限が設定されています。

(8) 授業の開講について

科目により開講を実施しない場合があります。

5. 履修登録科目の取り消し

やむを得ない事由により履修登録をした授業科目を取り消したいときは、履修科目取り消しの受付期間内に学生サービス課へ申し出て必要な手続きをしてください。

- ・取り消しが認められる授業科目数は、3科目（半期）までです。
- ・必修科目、履修制限科目、教室定員により調整済の科目は、取り消しできません。
- ・取消手続きは、該当する授業の初回に出席してからとなります。
- ・追加の履修登録はできません。

6. 履修登録科目の解除

災害、その他、実習先の都合により、履修を解除する場合があります。

7. 他の大学における単位の修得 ——単位互換制度——

本学と協定を結んでいる他の大学が開講し本学学生へ公開している授業科目を履修し、単位認定試験等に合格したときは本学の履修単位として認定します。この制度を単位互換制度といいます。

本学は現在、放送大学との間で単位互換協定を結んでいます。放送大学は、自宅で履修することができます。

IV 成績評価

各学期末にそれぞれの授業科目において行う所定の成績評価に合格することによって、その授業科目に与えられている単位が認定されます。

1. 成績評価を受けるための前提

成績評価を受けるためには、当該科目について、次の事項を満たしている必要があります。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 当該学期の最初に正しく履修登録がされていること。② 総授業回数の3分の2以上出席していること。 |
|--|

- ※ 「総授業回数の3分の2以上出席」とは、「3分の1まで欠席してよい」ということではありません。
- ※ 「出席」として認められるための要件については、担当教員からの指示をよく確認してください。「遅刻」「早退」は、原則として「出席」に含みません。
- ※ 定期試験を受験した場合であっても、出席が3分の2に満たない学生の成績評価はF（履修放棄）となります。
- ※ 休学、停学期間中の学生には受験資格がありません。
- ※ 次の事由による学部長が適当と認めた場合の欠席を「公欠」といいます。公欠が認められた場合、その授業は「出席」として扱います。公欠の申請については、学生サービス課へ相談してください。
 - ・本学を代表して対外行事等へ参加
 - ・忌引き
 - ・その他、学部長が適当と認めた場合
- ※ 学校保健安全法に定める感染症に罹患等の場合は、「出席停止」の扱いとします。但し、対面で行われる授業以外は対象としません。

2. 成績評価方法

成績評価は、筆記試験のほか、口述試験、コンピュータ等の実技試験、提出物（レポートその他の課題）等により行います。また、授業への参画度や受講態度等を加味することもあります。各授業科目の具体的な評価方法は、「授業概要（シラバス）」等で確認してください。

3. 評価基準

履修した授業科目の成績は、次表に記載された「評価基準」により評価されます。

成績表には、「成績表示」の「S」「A」「B」「C」「D」「F」「R」が表示されます。

また、成績証明書には、「評価」の「優」「良」「可」が表示され、「不可」は表示されません。R（単位認定）はそのまま「R」と表示されます。

評価	成績表示	評 点	評価基準	合 否
優	S	100～90点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された程度をはるかに超えた、きわめて優秀な成績である。	合 格
	A	89～80点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準を超えた成績である。	
良	B	79～70点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準を満たす平均的な成績である。	
可	C	69～60点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準をこらうじて満たす成績である。	
不可	D	59～0点	各科目で設定された到達目標に対し、出席の基準を満たしているが、再履修することが望まれる。	不 合 格
	F		以下のいずれかの場合、履修放棄とみなす。 1. 出席回数の基準を満たしていない。 2. 正当な理由なく定期試験を欠席した。 3. 本要項の「I 学期と授業」の「6. 授業の受講に関する留意事項」(p.12)に該当した。	
	R		他大学等において履修した科目の単位を本学で認めたもの。	

4. 定期試験

定期試験は、原則として、学期ごとに設定している定期試験期間に実施します。

定期試験期間中の試験時間割、試験室は、別に定めて学内掲示及びトリプルエーで知らせます。

(1) 試験時限

定期試験期間中の時限は、次のとおりです。通常の授業時限と異なりますので、十分に注意してください。

1 限	2 限	3 限	4 限	5 限	6 限
9:30～10:30	10:50～11:50	12:10～13:10	13:50～14:50	15:10～16:10	16:30～17:30

(2) 定期試験受験に際しての注意事項

- ① 試験での席順は、科目ごとに異なります。指定された席についてください。
- ② 受験の際には、学生証を持参し、試験中は試験監督者が見やすいように机上通路側に写真を表にして置いてください。
- ③ 学生証を忘れた場合、受験を認めません。忘れた場合は試験開始前に学生サービス課にて仮学生証（有料）の発行を受けてください。
- ④ 試験場へ持ち込めるものについては、科目担当教員、及び試験監督者の指示に従ってください。
- ⑤ やむを得ない事由により試験開始に遅刻した場合、試験開始後 30 分までに限り受験を認めません。この場合、試験の終了時間の延長は行いません。

- ⑥ 解答用紙は、試験場を退出する際に必ず提出しなければなりません。
- ⑦ 試験中に不正行為が明らかになった場合、解答用紙を没収します。また以後の他の科目の試験の受験を認めません。不正行為をした学生は本学の懲戒規定によって処罰の対象となります。
- ⑧ 公共交通機関に大幅な遅れが生じた場合等は、当日別時限または後日、試験を実施することがあります。

5. 追試験

「追試験」とは、学生が次の(1)に記載する正当な事由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の手続きの後に許可を得て、後日実施する単位認定試験をいいます。

(1) 追試験受験のための正当な事由

- ① 三親等内の親族が死亡した場合
- ② 病気あるいはケガによる場合
- ③ 災害その他不慮の事故による場合
- ④ その他、学部長がやむを得ない事由と認める場合

なお、正当な事由であることを証明するために、病気やケガの場合は医師の診断書、その他の場合はその事由がわかるものを提出する必要があります。

(2) 追試験受験の手続き

試験期間の初日から試験期間終了の日の2日後までの間に、所定の追試験料を添えて所定の「追試験願」を学生サービス課へ提出してください。

(3) 追試験受験の可否

追試験の受験を許可された学生に対して、追試験実施日時等の詳細を学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

(4) 追試験受験の許可の取り消し等

追試験の受験を許可した後、又は受験後において追試験受験の事由等について不正が明らかとなった場合、追試験受験の許可を取り消し、又は追試験の受験を無効とします。

6. 再試験

「再試験」とは、その年度に卒業を予定している学生が、3科目以内の授業科目の単位が修得できなかったために卒業に必要な単位に満たない場合、所定の手続きを経た後に許可を得て、再度実施する単位認定試験をいいます。

なお、9月卒業を予定する学生については、これとは別に対応します。学生サービス課へ問い合わせてください。

(1) 再試験の対象となる学生

最終学年に在籍し、その年度に卒業を予定している学生のみ対象となります。

(1・2・3年次に在籍する学生は対象となりません。)

(2) 再試験の対象となる授業科目

① 前期の再試験

原則として必修科目で、成績評価が不合格(D:不可)となった科目のみ。F評価の授業科

目は再試験の対象となりません。

② 後期の再試験

後期に履修登録をした卒業要件に関わる授業科目で、成績評価が不合格（D：不可）となった科目のみ。F 評価の授業科目は再試験の対象となりません。

(3) 再試験を実施しない授業科目

アクティブラーニング科目全般

キャリア科目全般

ゼミナール科目全般

日本語科目全般

生涯スポーツ

情報処理

統計処理

(4) 再試験を受験できる科目数

その年度の前期・後期を通じて 3 科目までです。

(5) 手続き

本学が指定する手続期間内に所定の再試験料を添えて所定の「再試験願」を学生サービス課へ提出してください。

手続期間については学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

(6) 再試験受験の可否

再試験受験可否について、教育サービス委員会が審議を行うこととします。再試験の受験を許可された学生に対して再試験の実施日時等の詳細を学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

(7) 再試験科目の成績評価

成績評価の上限は 60 点（C：可）です。

再試験において不合格となった場合、再度試験を実施することはありません。

7. 不正行為

定期試験、追試験、再試験において、試験の実施中・実施後を問わず不正行為が明らかとなった場合、懲戒（学則第53条）が行われるほか、その学期のすべての履修登録が無効となります（学生の懲戒処分に関する規程第12条）。授業の受講時の不正行為に関しては、本要項の「I 学期と授業」の「6. 授業の受講に関する留意事項」（p.12）を参照してください。

8. 成績評点平均点制 (GPA)

本学では、学生自身が学修結果を自己管理する際の総合的な尺度として、成績評点平均点制 (GPA : Grade Point Average) を採用しています。

GPAとは、各科目の成績を5段階に分けて数値化し (Grade Point)、それに科目の単位数を加味し、平均値を算出したものです。

GPAは、個々の学生への学修指導に用いられるほか、学科登録や奨学生、各種表彰、ゼミナールの選考、留年・退学勧告の際にも資料として使用されます。

成績表には、学期ごとのGPAと入学時から通算した総合GPAの2つのGPAが記載されます。

成績表示	Grade Point
S	4
A	3
B	2
C	1
D/F (不合格)	0

(1) GPA の計算方法

$$\frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4) + (A \text{ の修得単位数} \times 3) + (B \text{ の修得単位数} \times 2) + (C \text{ の修得単位数} \times 1)}{\text{総履修単位数}}$$

※ 総履修単位数には不合格(D・F)の授業科目の単位数を含みます。他大学において修得した科目(R)の単位を本学で認めた単位数及び履修取り消しをした科目の単位数は含めません。

(2) GPA に関する履修制限等

総合GPAが「1.5」に達しないときは、退学を勧告されることがあります。

(3) GPA 計算例 (2026 年度 1 年次入学生、1 年次前期の場合)

科目名		単 位	成 績	合 否	Grade Point		
一般 教育 科目 ・ 教 養 科 目	大学基盤科目	ホスピタリティ概論	2	A	合格	2 単位 × 3 = 6	
		対人関係基礎	2	A	合格	2 単位 × 3 = 6	
	人間理解領域	生活科学	2	B	合格	2 単位 × 2 = 4	
		音楽と人間	2	S	合格	2 単位 × 4 = 8	
	社会・自然・ 環境理解領域	社会学概論	2	F	不合格	2 単位 × 0 = 0	
	情報科学理解領域	ICTリテラシー	2	S	合格	2 単位 × 4 = 8	
	外国語	英語基礎	1	S	合格	1 単位 × 4 = 4	
学部科目	ゼミナール科目	初年次ゼミナールa	1	D	不合格	1 単位 × 0 = 0	
学部 専門 科目	専門基盤科目群	専門基礎科目	経済学入門	2	S	合格	2 単位 × 4 = 8
			簿記入門	2	B	合格	2 単位 × 2 = 4
			経営学入門	2	C	合格	2 単位 × 1 = 2
	アクティブ ラーニング科目	フィールド ワーク型	フィールドワーク I	3	—	—	—
	キャリア科目	キャリアビジョンa	1	A	合格	1 単位 × 3 = 3	
総履修単位数		24	Grade Point 計		53		

$$1 \text{ 年次前期の GPA} = \frac{\text{前期の Grade Point } 53}{\text{前期の総履修単位数 } 21} = 2.52 \text{ (小数点第 3 位以下四捨五入)}$$

総合GPAが2.5未満の学生は、2.5以上になるようしっかり勉学に努めてください。

9. 成績の通知

成績は、学期末にトリプルエーで通知します。

また、保証人に対して学期毎に成績表を郵送します。

10. 成績の照会

成績（成績評価と出席率）に疑問があるときは、所定の期間内に学生サービス課にて成績照会の手続きを行ってください。

11. 卒業認定

その年度に卒業を予定している学生について、最終試験（9月卒業の学生については前期定期試験）終了後に教授会において、学則に定める卒業の要件を満たしているか否かを判定します。

その結果、卒業を認める学生については、トリプルエーで通知します。

V 大学から学生への情報の伝達

1. 学内掲示とトリプルエーの活用

大学から学生に対する公式な伝達は、学内掲示及びトリプルエーで行います。

休講、教室変更、試験の実施、レポートの提出など授業や試験に関すること、奨学金の手続きをはじめ学生生活に関するもののほか、教員や事務局からの呼び出しなど、原則として学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

学内掲示及びトリプルエーで伝達した事項は、学生全員（休学中の学生を含む）が確認していることとして取り扱います。情報の見落としにより不利益を被ることのないよう、十分に注意してください。詳細はトリプルエーのオンラインヘルプを参照してください。

2. Web メール：Microsoft 365

入学時に各学生へE-Mailアドレスを付与します。このアドレスは、「Microsoft 365」で使用できます。

このアドレスは、授業科目に関する担当教員からの連絡などにも使用することがあります。

「上記1.」に記載された「トリプルエーで伝達した事項」はWebメールに転送されることがあるので、こちらについても情報の見落としに十分注意してください

パソコン室のPCにログインの後、デスクトップ上の「Outlook」アイコンを実行することにより利用できます。

必要に応じて転送の設定をするなどして有効に活用してください。

詳細はトリプルエーのオンラインヘルプを参照してください。

VI ゼミナール

1. ゼミナールとは

サービス経営学部では、1年次から4年次までゼミナールを履修します。

ゼミナールは、「一般教育科目」「専門基盤科目」「アクティブラーニング科目」「専門展開科目」などの履修を通じて発見した問題や課題に基づく研究テーマについてゼミナール担当教員の指導のもとで探求するための授業です。

2. 初年次ゼミナール（学部科目として設置されています）

1年次のゼミナールの授業科目名は「初年次ゼミナールa」「初年次ゼミナールb」です。

（1）初年次ゼミナールの目的

1年生に必要な、学びに対する意識、意欲、学びに関するルールの理解や、学びの基本スキル（ノート作成、PC操作、レポート執筆など）の向上を図り、学んだことや考察した結果を適切な手段によって適切に表現するための基礎力を身につけます。

（2）初年次ゼミナールの所属の決定

初年次ゼミナールの所属は、入学時に自動的に決定されます。

3. 専門ゼミナールⅠ

2年次のゼミナールの授業科目名は「専門ゼミナールⅠa」「専門ゼミナールⅠb」です。

（1）専門ゼミナールⅠの目的

専門ゼミナールⅠは、3年次の専門ゼミナールⅡへ向け、テーマの選択の前段階としてどのような研究テーマがあるのか、その研究のためにはどのような準備が必要なのかを知るとともに、幅広い学修の中で自らの関心がどこにあるのかを探究します。

（2）専門ゼミナールⅠの選択

専門ゼミナールⅠの所属の選考を1年次の後期に行います。

（3）専門ゼミナールⅠの再履修

- ①専門ゼミナールⅠの単位を修得できなかった場合、翌年度に再履修しなくてはなりません（3年次の専門ゼミナールⅡは履修できません）。
- ②3年次に専門ゼミナールⅠを再履修し単位を修得した場合、4年次では担当教員が承認した場合のみ、例外的に専門ゼミナールⅡ及び専門ゼミナールⅢを履修することができます。ただし3年終了時の総取得単位数が74単位未満の場合、専門ゼミナールⅢを履修することはできません。

4. 専門ゼミナールⅡ

3年次のゼミナールの授業科目名は「専門ゼミナールⅡa」「専門ゼミナールⅡb」です。

（1）専門ゼミナールⅡの目的

専門ゼミナールⅡは、専門科目で学んだ重要事項や理論枠組みを整理し、自ら問題を発見し、課題を抽出することを目的とします。教員は自らの専門性の観点から指導します。

(2) 専門ゼミナールⅡ履修の前提条件

専門ゼミナールⅡを履修するにあたっては、専門ゼミナールⅠの単位を修得していることが必要です。

(3) 専門ゼミナールⅡの選考方法

専門ゼミナールⅡの所属の選考を2年次の後期に行います。

5. 専門ゼミナールⅢ

4年次のゼミナールの授業科目名は「専門ゼミナールⅢa」「専門ゼミナールⅢb」です。

(1) 専門ゼミナールⅢの目的

専門ゼミナールⅡの学習過程と成果を踏まえて、テーマを具体的に絞り込み、「問題の集約」あるいは「問題への対応・対処」、さらには「新規の提案」として考えをまとめ、最終的な成果物を執筆ないし作成し、提出することを目的とします。

(2) 専門ゼミナールⅢにおいて所属するゼミ

前述のとおり、「専門ゼミナールⅢ」は「専門ゼミナールⅡ」における研究から継続するものです。よって「専門ゼミナールⅢ」においては、原則として「専門ゼミナールⅡ」と同じゼミ（ゼミ担当教員）に所属します。

ただし、「専門ゼミナールⅡ」における探究の過程で研究テーマを変更する必要性が生じた場合など、学生からの申し出により、「専門ゼミナールⅡ」から「専門ゼミナールⅢ」への移行のタイミングで、所属するゼミ（ゼミ担当教員）の変更を学部長が許可することがあります。

(3) 成果物の提出について

最終的な成果物は、卒業論文あるいは卒業論文にかわるタームペーパー等の報告書による。単位修得のために提出が必要な成果物の内容はゼミによって異なるため、担当教員の指示にしたがうこと。

(4) 成果物の提出スケジュールおよび提出方法について

トリプルエーに掲示される提出要領にしたがってください。

(5) 評価

提出された成果物の成績評価は、その学生が所属するゼミの担当教員が行います。

(6) 注意

盗用（コピー・アンド・ペーストを含む一切の剽窃行為）や盗作（学生本人以外が作成したものを自分が作成したものとして提出すること）が明らかとなったときは提出を無効とし、評価の対象とはしません。これらの行為は、懲戒（訓告、退学または停学）の対象となります（学則第53条、学生の懲戒処分に関する規定第5条）。

第3部

履修計画および授業科目

I 履修計画

1. 4年間のカリキュラムと履修計画

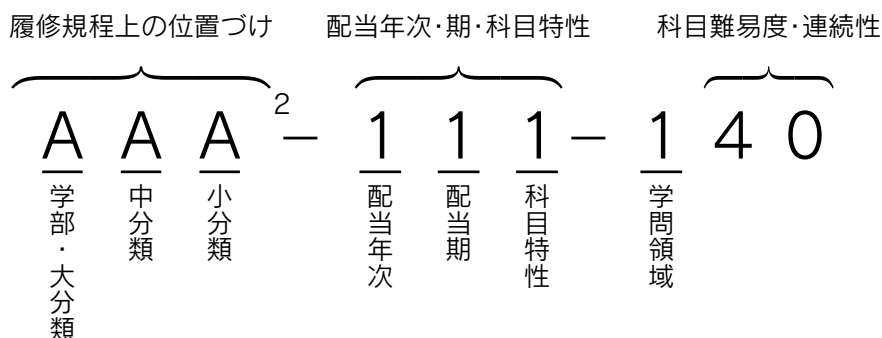
サービス経営学部のカリキュラムは、これまでの「知識移転型の学び」に加え、「能動的・活動的な学び（アクティブラーニング）」における「反省的实践」を通して、①ホスピタリティ精神に基づく、豊かで柔軟な協調的主体性（未来創造的コンピテンシー）、②専門性、③汎用的技能、④未来創造的思考力、⑤未来創造的行動力の5つの要素でできている、「他者とともに協調し、学び合いながら、未来を創造する力」を培うことをめざしています。

各自の目的、目標、関心などに応じながら、一定のルールのもとに履修する必要があります。

卒業に必要な単位数124 単位以上を修得できるよう、4年間の履修計画を立ててください。

2. サービス経営学部 ナンバリングコード付番ルール

ナンバリングコードは、各科目についており、以下の9桁のコードを組み合わせ、その科目の水準、履修順序、授業形態などを表しています。



①履修規定上の位置づけ（学部・大項目）+②履修規定上の位置づけ（中項目）+③履修規定上の位置づけ（小項目）+④配当年次+⑤配当期+⑥科目特性+⑦学問領域+⑧科目難易度・連続性の有無（下2桁）

（例）

サービスマネジメント論 BBG-121-402

サービス経営学部の学部専門科目・専門基盤科目・専門基幹科目で、かつ1年後期に配当される必修科目で、サービス経営学関連科目の基礎的科目

サービスマーケティング BBG-212-412

サービス経営学部の学部専門科目・専門基盤科目・専門基幹科目で、かつ2年前期に配当される必修科目で、サービス経営学関連科目の専門的科目

分類	記号・数字	内容	備考
履修上の位置づけ (大分類)	A	サービス経営学部サービス経営学科 一般教育科目・教養科目	
	B	サービス経営学部サービス経営学科 学部専門科目	
	C	サービス経営学部サービス経営学科 学部科目	初年次ゼミナール
履修上の位置づけ (中分類)	A	全学共通科目	
	B	専門基盤科目	
	C	アクティブラーニング科目	
	D	専門展開科目	
	E	キャリア科目	
	F	ゼミナール科目	
	G	留学生科目	
	O	中分類なし	
履修上の位置づけ (小分類)	A	大学基盤科目	
	B	人間理解領域	
	C	社会・自然・環境理解領域	
	D	情報科学理解領域	
	E	外国語	
	F	専門基礎	
	G	専門基幹	
	H	ラーニングエレメント科目	
	I	未来創造エレメント	
	J	AL イベントプロデュース型	
	K	AL ビジネスデザイン型	
	L	AL マーケティングデザイン型	
	M	AL 地域デザイン型	
	N	AL フィールドワーク型	
	O	AL 職能開発型	
	P	専門展開コア科目	
	Q	専門展開領域Ⅰホスピタリティ	
	R	専門展開領域Ⅱツーリズム	
	S	専門展開領域Ⅲブライダル&エンターテインメント	
	T	専門展開領域Ⅳマーケティング&マネジメント	
	U	専門展開領域Ⅴ地域創生	
V	専門展開領域Ⅵデジタル		
W	ゼミナール科目		
X	日本語		
O	小分類なし		

配当年次	1	1年次から履修可能な科目	
	2	2年次から履修可能な科目	
	3	3年次から履修可能な科目	
	4	4年次から履修可能な科目	
配当期	1	前期配当科目	
	2	後期配当科目	
	3	通年配当科目	
	4	前期／後期配当科目	統計処理
科目特性	1	必修科目	
	2	選択科目	
学問領域	1	経営学関連科目	
	2	経済学関連科目	
	3	会計学関連科目	
	4	サービス経営学関連科目	
	5	上記以外の学問領域関連科目	
	0	特定の学問領域なし	
通し番号 (下2桁)	01～09	難易度が低い基礎的科目かつ連続性のある科目	連続科目は1の位 が同じ
	10～19	難易度が高い専門的科目かつ連続性のある科目	
	20～29	英語関連科目	
	30～39	その他外国語科目	
	40～99	その他	ランダム

3. 各科目とディプロマ・ポリシーとの関連

サービス経営学部では、所定の期間在学のうえ卒業要件となる単位を修得し、ディプロマ・ポリシーに示す能力を有する者に学士（サービス経営学）の学位を授与します。

以下に、各科目とDPとの関連を示します。（◎…非常に関連がある、○…関連がある）

前述した科目のナンバリングコード付番ルールとあわせて、履修計画の参考にしてください。

A) 1年次前期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
AAA-111-140	ホスピタリティ概論	2	◎	○	○		◎	○	
AAA-111-101	対人関係基礎	2	◎			◎		◎	
AAA-112-142	ホスピタリティ日本語	2	○			◎			
AAB-112-541	生活科学	2		○		○			
AAB-112-542	日常生活と健康	2		○		○			
AAB-112-543	音楽と人間	2			○		○		
AAB-142-544	哲学と人生	2			○		○		
AAB-142-548	生涯スポーツ [理論と実技]	2			○		○		
AAC-112-540	社会学概論	2			○		○		
AAC-142-541	法学概論 (憲法含)	2		○	○		○		
AAC-112-542	社会と歴史	2		○	○		○		
AAC-112-543	地球環境科学概論	2		○	○		○		
AAC-112-545	NPO・ボランティア論入門	2		○	○		○	◎	
AAC-112-546	コミュニティ論	2		○	○		○	◎	
AAD-112-501	ICTリテラシー	2			○	○			○
AAD-142-512	統計処理	2			○	○			○
AAD-112-504	データサイエンス・AI活用入門	2			○	○			○
AAE-111-520	英語基礎	1							
AAE-112-124	ホスピタリティ英会話 I [サービス]	1	○			○	○		
AAE-112-530	フランス語 I	2				○	○		
AAE-112-532	韓国・朝鮮語 I	2				○	○		
AAE-112-534	中国語 I	2				○	○		
COW-111-001	初年次ゼミナールa	1	○		○	○	○	○	○
BBF-111-201	経済学入門	2			○	○			○
BBF-111-302	簿記入門	2			○	○			○
BBF-111-103	経営学入門	2			○	○			○
BBG-112-401	サービスとホスピタリティ	2	◎	○	○				
BCJ-132-041	アート&カルチャーイベント I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-132-045	ブライダルプロデュース I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-132-049	スポーツイベント I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCK-132-053	ビジネスデザイン I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	○	◎
BCL-132-057	マーケティングデザイン I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	○	◎
BCM-132-061	地域デザイン I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	○	◎	○	◎
BCN-132-065	フィールドワーク I (ラーニングエクスペリエンス)	6	○	○	○	◎	◎	○	○
BCN-112-069	海外フィールドワーク I	3	○	○	○	◎	◎	○	◎
BCO-112-071	職能開発 I a (ラーニングエクスペリエンス)	2	○	○	○	◎	◎	○	○
BEO-111-501	キャリアビジョンa	1		◎		○	○		○
BGX-112-501	日本語 I a	1				○	○		

B) 1 年次後期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
AAA-122-141	ホスピタリティ・スキルズ	2	◎		○	○	○	○	
AAA-122-111	対人関係応用	2	◎			◎		◎	
AAA-122-543	プレゼンテーション・スキルズ	2				○			○
AAA-122-544	ロジカルシンキング	2				○			○
AAB-122-540	心理学概論	2			○		○		
AAB-142-544	哲学と人生	2			○		○		
AAB-122-545	先人に学ぶ	2			○		○		
AAB-122-546	教育学概論	2			○		○		
AAB-122-547	頭脳と学習	2			○		○		
AAB-142-548	生涯スポーツ [理論と実技]	2			○		○		
AAC-142-541	法学概論 (憲法含)	2		○	○		○		
AAC-122-544	現代社会と保健医療福祉	2		◎				○	
AAC-122-547	災害と地域づくり	2		◎				○	
AAD-122-502	情報処理	2			○	○			○
AAD-142-512	統計処理	2			○	○			○
AAD-122-503	数値処理	2			○	○			○
AAD-122-540	社会調査法	2			○	○			○
AAD-222-513	統計・定量分析手法	2			○	○			○
AAD-122-514	科学技術論	2			○	○			○
AAE-121-521	初級英会話	1				○	○		
AAE-122-125	ホスピタリティ英会話Ⅱ [医療・福祉]	1				○	○		
AAE-122-531	フランス語Ⅱ	2				○	○		
AAE-122-533	韓国・朝鮮語Ⅱ	2				○	○		
AAE-122-535	中国語Ⅱ	2				○	○		
COW-121-002	初年次ゼミナールb	1	○		○	○	○	○	○
BBF-121-211	産業論	2			○	○			○
BBF-122-312	会計学総論	2			○	○			○
BBF-122-113	マーケティング	2			○	○			○
BBG-121-402	サービスマネジメント論	2			○	○			○
BBH-122-501	ラーニングコミュニティ・スタディーズ	2			◎	○	○	○	○
BCN-122-070	海外フィールドワークⅡ	3	○	○	○	◎	◎	○	◎
BCO-122-072	職能開発 I b (ラーニングエクスペリエンス)	2	○	○	○	○	◎	◎	○
BEO-121-502	キャリアビジョンb	1		◎		○	○		○
BGX-122-502	日本語 I b	1				○	○		

C) 2年次前期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
AAE-212-522	英語 I	2				○	○		
AAE-212-126	ホスピタリティ英会話Ⅲ [ビジネス]	1	○			○	○		
BBG-212-412	サービスマーケティング	2	○		○	○			
BBH-212-502	コミュニケーション・スタディーズ	2			○	○		○	
BBI-212-540	未来創造論 I	2		○	○			◎	◎
BBI-212-541	未来創造論 II	2		○	○			◎	◎
BCJ-232-042	アート&カルチャーイベントⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-232-046	ブライダルプロデュースⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-232-050	スポーツイベントⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	○	◎	◎	○
BCK-232-054	ビジネスデザインⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	○	◎	○	○
BCL-232-058	マーケティングデザインⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	○	◎	○	○
BCM-232-062	地域デザインⅡ (チームワークラーニング)	6	○	◎	○	◎	◎	○	○
BCN-232-066	フィールドワークⅡ (チームワークラーニング)	6	○	○	○	◎	◎	○	○
BCO-212-073	職能開発Ⅱ a (チームワークラーニング/就業体験プログラム)	2	○	○	○	◎	◎	○	○
BDP-212-240	グローバル経済論	2			○	○			○
BDP-212-341	上級会計学	2			○	○			○
BDP-212-142	経営戦略論	2			○	○			○
BDQ-212-450	宿泊産業論	2			○	○			○
BDR-212-456	観光産業論	2			○	○			○
BDS-212-461	ブライダルサービス論	2			○	○			○
BDS-212-462	スポーツマネジメント論	2			○	○			○
BDT-212-466	顧客心理とマーケティング	2			○	○			○
BDU-212-474	地域デザイン論	2			○	○			○
BDV-212-479	AIとプログラミング	2			○	○			○
BEO-211-503	キャリアデザインⅠ a	1		◎		○	○		○
BFO-211-011	専門ゼミナールⅠ a	2	○		○	○	○	○	○
BGX-212-511	日本語Ⅱ a	1				○	○		

D) 2 年次後期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
AAE-222-523	英語Ⅱ	2				○	○		
AAE-222-127	ホスピタリティ英会話Ⅳ [プレゼンテーション]	1	○			○	○		
BBG-222-411	サービスデザイン論	2	○		○	○			
BBH-222-512	リーダーシップとコーチング	2			○	○	○	◎	○
BBI-222-542	未来創造論Ⅲ (サステナビリティ)	2		○	○			◎	◎
BBI-222-543	未来創造論Ⅳ (デジタル)	2		○	○			◎	◎
BCO-222-074	職能開発Ⅱ b (チームワークラーニング/インターンシップ)	2	○	○	○	◎	◎	○	○
BDP-222-143	経営組織論	2			○	○			○
BDP-222-544	企業法制と倫理	2			○	○			○
BDP-222-245	金融論	2			○	○			○
BDQ-222-451	フードサービス論	2			○	○			○
BDQ-222-452	おもてなしマネジメント論	2			○	○			○
BDR-222-457	観光マネジメント論	2			○	○			○
BDS-222-463	ブライダルビジネス論	2			○	○			○
BDT-222-467	マーケティングリサーチ	2			○	○			○
BDT-222-468	流通システム論	2			○	○			○
BDT-222-469	広告とコミュニケーション	2			○	○			○
BDU-222-475	経済政策	2			○	○			○
BDV-222-480	データサイエンス	2			○	○			○
BE0-221-504	キャリアデザインⅠ b	1		◎		○	○		○
BFO-221-012	専門ゼミナールⅠ b	2	○		○	○	○	○	○
BGX-222-512	日本語Ⅱ b	1				○	○		

E) 3年次前期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
BBG-312-413	サービスイノベーション論	2	○		○	○			○
BBH-312-511	ホスピタリティ教育論	2	○	○	◎	◎	○	◎	○
BCJ-312-043	アート&カルチャーイベントⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-312-047	ブライダルプロデュースⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-312-051	スポーツイベントⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCK-312-055	ビジネスデザインⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	○	◎	○	○
BCL-312-059	マーケティングデザインⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	○	◎	○	○
BCM-312-063	地域デザインⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	◎	○	◎	◎	○	○
BCN-312-067	フィールドワークⅢa (リーダーシップラーニング)	3	○	○	○	◎	◎	○	○
BCO-312-075	職能開発Ⅲa (リーダーシップラーニング/ケースメソッド)	2	○	○	○	◎	◎	○	○
BDP-312-146	財務分析	2			○	○			○
BDP-312-247	行動経済学と意思決定	2			○	○			○
BDQ-312-453	エアラインサービス論	2			○	○			○
BDQ-312-454	福祉サービス論	2			○	○			○
BDR-312-458	観光資源論	2			○	○			○
BDR-312-459	交通産業論	2			○	○			○
BDS-312-464	エンターテインメントマネジメント論	2			○	○			○
BDT-312-470	リテールビジネス論	2			○	○			○
BDT-312-471	イノベーションプロセス論	2			○	○			○
BDU-312-476	中小企業・ベンチャービジネス論	2			○	○			○
BDV-312-481	デジタルコンテンツクリエイション	2			○	○			○
BEO-311-511	キャリアデザインⅡa	1		◎		○	○		○
BFO-311-013	専門ゼミナールⅡa	2	○		○	○	○	○	○

F) 3年次後期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
BCJ-322-044	アート&カルチャーイベントⅢb (マネジメントラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-322-048	プライダルプロデュースⅢb (マネジメントラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCJ-322-052	スポーツイベントⅢb(マネジメントラーニング)	3	○	○	○	○	◎	◎	○
BCK-322-056	ビジネスデザインⅢb(マネジメントラーニング)	3	○	○	○	○	◎	○	○
BCL-322-060	マーケティングデザインⅢb (マネジメントラーニング)	3	○	○	○	○	◎	○	○
BCM-322-064	地域デザインⅢb(マネジメントラーニング)	3	○	◎	○	◎	◎	○	○
BCN-322-068	フィールドワークⅢb(マネジメントラーニング)	3	○	○	○	◎	◎	○	○
BCO-322-076	職能開発Ⅲb (マネジメントラーニング/ケースメソッド)	2	○	○	○	◎	◎	○	○
BDP-322-148	オペレーションズマネジメント	2			○	○			○
BDP-322-149	人材マネジメント論	2			○	○			○
BDQ-322-455	ホテルマネジメント論	2			○	○			○
BDR-322-460	MICE ビジネス論	2			○	○			○
BDS-322-465	テーマパーク論	2			○	○			○
BDT-322-472	ラグジュアリービジネス論	2			○	○			○
BDT-322-473	国際経営論	2			○	○			○
BDU-322-477	公益事業論	2			○	○			○
BDU-322-478	不動産論	2			○	○			○
BDV-322-482	ビジネスシミュレーション	2			○	○			○
BEO-321-512	キャリアデザインⅡb	1		◎		○	○		○
BFO-321-014	専門ゼミナールⅡb	2	○		○	○	○	○	○

G) 4年次前期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
BEO-411-513	キャリアデザインⅢa	1		◎		○	○		○
BFO-411-015	専門ゼミナールⅢa	2	○		○	○	○	○	○

H) 4年次後期履修可能科目

科目コード	科目名	単位	DP						
			1	2	3	4	5	6	7
BEO-421-514	キャリアデザインⅢb	1		◎		○	○		○
BFO-421-016	専門ゼミナールⅢb	2	○		○	○	○	○	○

Ⅱ 授業科目構成と卒業要件単位

S261

区 分			必修	選 択	計	
一般教育科目・ 教養科目	全学共通科目	大学基盤科目	4	2	18	124
		人間理解領域		12		
		社会・自然・環境理解領域				
		情報科学理解領域		4		
		外国語科目	2	2		
学部科目		ゼミナール科目	2			
学部専門科目	専門基盤科目群	専門基礎科目	10	4		
		専門基幹科目				
		ラーニングエレメント科目		2		
		未来創造エレメント科目		4		
	アクティブラーニング科目群	イベントプロデュース型		18	18	
		ビジネスデザイン型				
		マーケティングデザイン型				
		地域デザイン型				
		フィールドワーク型				
		職能開発型				
	専門展開科目群	専門展開コア科目		6		
		専門展開 領域Ⅰホスピタリティ		14		
		専門展開 領域Ⅱツーリズム				
		専門展開 領域Ⅲプライダル&エンターテインメント				
		専門展開 領域Ⅳマーケティング&マネジメント				
		専門展開 領域Ⅴ地域創生				
		専門展開 領域Ⅵデジタル				
	キャリア科目		8			
	ゼミナール科目		12			
	留学生科目					

卒業要件単位数	必修	選 択	計
	38	68	18

Ⅲ サービス経営学部 授業科目及び単位数

S261

(※)「前」:前期開講 「後」:後期開講 「前/後」:前期及び後期にそれぞれ開講 「前/後/通年」:当該科目の中に複数の授業が存在し、前期、後期、又は通年にて開講するものが含まれる。

区 分	授業科目の名称	配当年次 (※)		単 位		備 考
		必修	選択	必修	選択	
一般教育科目・教養科目	大学基盤科目	ホスピタリティ概論	1	前	2	必修4単位 選択2単位以上
		ホスピタリティ・スキルズ	1	後	2	
		対人関係基礎	1	前	2	
		対人関係応用	1	後	2	
		ホスピタリティ日本語	1	前	2	
		プレゼンテーション・スキルズ	1	後	2	
		ロジカルシンキング	1	後	2	
	人間理解領域	心理学概論	1	後	2	選択12単位以上
		生活科学	1	前	2	
		日常生活と健康	1	前	2	
		音楽と人間	1	前	2	
		哲学と人生	1	前/後	2	
		先人に学ぶ	1	後	2	
		教育学概論	1	後	2	
		頭脳と学習	1	後	2	
		生涯スポーツ〔理論と実技〕	1	前/後	2	
	社会・自然・環境理解領域	社会学概論	1	前	2	選択4単位以上
		法学概論（憲法含）	1	前/後	2	
		社会と歴史	1	前	2	
		地球環境科学概論	1	前	2	
		現代社会と保健医療福祉	1	後	2	
		NPO・ボランティア論入門	1	前	2	
		コミュニティ論	1	前	2	
		災害と地域づくり	1	後	2	
	情報科学理解領域	ICTリテラシー	1	前	2	必修2単位 選択2単位以上
		情報処理	1	後	2	
		統計処理	1	前/後	2	
		数理処理	1	後	2	
		データサイエンス・AI活用入門	1	前	2	
		社会調査法	1	後	2	
		統計・定量分析手法	2	後	2	
		科学技術論	1	後	2	
		外国語	英語基礎	1	前	
	初級英会話		1	後	1	
	英語Ⅰ		2	前	2	
	英語Ⅱ		2	後	2	
	ホスピタリティ英会話Ⅰ〔サービス〕		1	前	1	
	ホスピタリティ英会話Ⅱ〔医療・福祉〕		1	後	1	
	ホスピタリティ英会話Ⅲ〔ビジネス〕		2	前	1	
	ホスピタリティ英会話Ⅳ〔プレゼンテーション〕		2	後	1	
	フランス語Ⅰ		1	前	2	
	フランス語Ⅱ		1	後	2	
韓国・朝鮮語Ⅰ	1		前	2		
韓国・朝鮮語Ⅱ	1		後	2		
中国語Ⅰ	1		前	2		
中国語Ⅱ	1		後	2		
学部科目	ゼミナール科目	初年次ゼミナール a	1	前	1	必修2単位
		初年次ゼミナール b	1	後	1	

次頁続

(※)「前」:前期開講 「後」:後期開講 「前/後」:前期及び後期にそれぞれ開講 「前/後/通年」:当該科目の中に複数の授業が存在し、前期、後期、又は通年にて開講するものが含まれる。

区 分		授業科目の名称	配当年次(※)		単 位	備 考	
					必修 選択		
学部専門科目	専門基礎科目	経済学入門	1	前	2	前頁からの続 必修10単位 選択4単位	
		簿記入門	1	前	2		
		経営学入門	1	前	2		
		産業論	1	後	2		
		会計学総論	1	後	2		
		マーケティング	1	後	2		
		専門基幹科目	サービスとホスピタリティ	1	前		2
			サービスマネジメント論	1	後		2
			サービスマーケティング	2	前		2
			サービスデザイン論	2	後		2
	サービスイノベーション論		3	前	2		
	ラーニング エレメント科目	ラーニングコミュニティ・スタディーズ	1	後	2	選択2単位	
		コミュニケーション・スタディーズ	2	前	2		
		リーダーシップとコーチング	2	後	2		
		ホスピタリティ教育論	3	前	2		
	未来創造 エレメント科目	未来創造論Ⅰ	2	前	2	選択4単位	
		未来創造論Ⅱ	2	前	2		
		未来創造論Ⅲ	2	後	2		
		未来創造論Ⅳ	2	後	2		
	アクティブラーニング 科目群	イベント プロデュース型	アート&カルチャーイベントⅠ (ラーニングエクスペリエンス)	1	通年	6	選択18単位
アート&カルチャーイベントⅡ (チームワークラーニング)			2	通年	6		
アート&カルチャーイベントⅢa (リーダーシップラーニング)			3	前	3		
アート&カルチャーイベントⅢb (マネジメントラーニング)			3	後	3		
ブライダルプロデュースⅠ (ラーニングエクスペリエンス)			1	通年	6		
ブライダルプロデュースⅡ (チームワークラーニング)			2	通年	6		
ブライダルプロデュースⅢa (リーダーシップラーニング)			3	前	3		
ブライダルプロデュースⅢb (マネジメントラーニング)			3	後	3		
スポーツイベントⅠ(ラーニングエクスペリエンス)			1	通年	6		
スポーツイベントⅡ(チームワークラーニング)			2	通年	6		
スポーツイベントⅢa(リーダーシップラーニング)		3	前	3			
スポーツイベントⅢb(マネジメントラーニング)		3	後	3			
ビジネス デザイン型		ビジネスデザインⅠ(ラーニングエクスペリエンス)	1	通年	6		
		ビジネスデザインⅡ(チームワークラーニング)	2	通年	6		
	ビジネスデザインⅢa(リーダーシップラーニング)	3	前	3			
	ビジネスデザインⅢb(マネジメントラーニング)	3	後	3			
マーケティング デザイン型	マーケティングデザインⅠ (ラーニングエクスペリエンス)	1	通年	6			
	マーケティングデザインⅡ (チームワークラーニング)	2	通年	6			
	マーケティングデザインⅢa (リーダーシップラーニング)	3	前	3			
	マーケティングデザインⅢb (マネジメントラーニング)	3	後	3			

次頁続

次頁続

(※)「前」:前期開講 「後」:後期開講 「前/後」:前期及び後期にそれぞれ開講 「前/後/通年」:当該科目の中に複数の授業が存在し、前期、後期、又は通年にて開講するものが含まれる。

区 分	授業科目の名称	配当年次(※)		単 位		備 考
				必修	選択	
学部専門科目	地域デザイン型	地域デザインⅠ(ラーニングエクスペリエンス)	1	通年	6	前頁からの続 前頁からの続 選択18単位 選択6単位 選択14単位 一般教育科目を含め18単位
		地域デザインⅡ(チームワークラーニング)	2	通年	6	
		地域デザインⅢa(リーダーシップラーニング)	3	前	3	
		地域デザインⅢb(マネジメントラーニング)	3	後	3	
	フィールドワーク型	フィールドワークⅠ(ラーニングエクスペリエンス)	1	通年	6	
		フィールドワークⅡ(チームワークラーニング)	2	通年	6	
		フィールドワークⅢa(リーダーシップラーニング)	3	前	3	
		フィールドワークⅢb(マネジメントラーニング)	3	後	3	
		海外フィールドワークⅠ	1	前	3	
		海外フィールドワークⅡ	1	後	3	
	職能開発型	職能開発Ⅰa(ラーニングエクスペリエンス)	1	前	2	
		職能開発Ⅰb(ラーニングエクスペリエンス)	1	後	2	
		職能開発Ⅱa (チームワークラーニング/就業体験プログラム)	2	前	2	
		職能開発Ⅱb (チームワークラーニング/インターンシップ)	2	後	2	
		職能開発Ⅲa (リーダーシップラーニング/ケースメソッド)	3	前	2	
		職能開発Ⅲb (マネジメントラーニング/ケースメソッド)	3	後	2	
	専門展開 コア科目	グローバル経済論	2	前	2	
		上級会計学	2	前	2	
		経営戦略論	2	前	2	
		経営組織論	2	後	2	
		企業法制と倫理	2	後	2	
		金融論	2	後	2	
		財務分析	3	前	2	
		行動経済学と意思決定	3	前	2	
オペレーションズマネジメント		3	後	2		
人材マネジメント論		3	後	2		
専門展開 領域Ⅰ ホスピタリティ	宿泊産業論	2	前	2		
	フードサービス論	2	後	2		
	おもてなしマネジメント論	2	後	2		
	エアラインサービス論	3	前	2		
	福祉サービス論	3	前	2		
	ホテルマネジメント論	3	後	2		
専門展開 領域Ⅱ ツーリズム	観光産業論	2	前	2		
	観光マネジメント論	2	後	2		
	観光資源論	3	前	2		
	交通産業論	3	前	2		
	MICEビジネス論	3	後	2		
専門展開 領域Ⅲ ブライダル & エンターテインメント	ブライダルサービス論	2	前	2		
	スポーツマネジメント論	2	前	2		
	ブライダルビジネス論	2	後	2		
	エンターテインメントマネジメント論	3	前	2		
	テーマパーク論	3	後	2		

次頁続

次頁続

(※)「前」:前期開講 「後」:後期開講 「前/後」:前期及び後期にそれぞれ開講 「前/後/通年」:当該科目の中に複数の授業が存在し、前期、後期、又は通年にて開講するものが含まれる。

区 分		授業科目の名称	配当年次(※)		単 位	備 考		
					必修 選択			
学部専門科目	専門展開 領域Ⅳ マーケティング & マネジメント	顧客心理とマーケティング	2	前		2	前頁か らの続	
		マーケティングリサーチ	2	後		2		
		流通システム論	2	後		2		
		広告とコミュニケーション	2	後		2		
		リテールビジネス論	3	前		2		
		イノベーションプロセス論	3	前		2		
		ラグジュアリービジネス論	3	後		2		
		国際経営論	3	後		2		
		専門展開 領域Ⅴ 地域創生	地域デザイン論	2	前			2
			経済政策	2	後			2
			中小企業・ベンチャービジネス論	3	前			2
			公益事業論	3	後			2
			不動産論	3	後			2
		専門展開 領域Ⅵ デジタル	AIとプログラミング	2	前			2
	データサイエンス		2	後		2		
	デジタルコンテンツ・クリエイション		3	前		2		
	ビジネスシミュレーション		3	後		2		
	キャリア科目	キャリアビジョンa	1	前	1		必修 8単位	一般教育科目を含め18単位
		キャリアビジョンb	1	後	1			
		キャリアデザインⅠa	2	前	1			
		キャリアデザインⅠb	2	後	1			
		キャリアデザインⅡa	3	前	1			
		キャリアデザインⅡb	3	後	1			
		キャリアデザインⅢa	4	前	1			
	キャリアデザインⅢb	4	後	1				
	ゼミナール科目	専門ゼミナールⅠa	2	前	2		必修 12単位	
		専門ゼミナールⅠb	2	後	2			
		専門ゼミナールⅡa	3	前	2			
専門ゼミナールⅡb		3	後	2				
専門ゼミナールⅢa		4	前	2				
専門ゼミナールⅢb		4	後	2				
留学生科目	日本語	日本語Ⅰa	1	前		1		
		日本語Ⅰb	1	後		1		
		日本語Ⅱa	2	前		1		
		日本語Ⅱb	2	後		1		